

連携先世界遺産： 醍醐寺

本科目が取り組んだ課題・改善事項

開かれた学びの場としての醍醐寺～多様な魅力の発見と創出～

①醍醐味、だい☆グミ！ 醍醐寺Café ②私の醍醐寺発見ツアー

■受講生

酒井 千春（龍谷大学政策学部3年生）、柴田 拳伍（龍谷大学国際学部3年生）、玉田 遼河（龍谷大学社会学部1年生）、
富永 燦子（龍谷大学社会学部1年生）、中上 穂高（龍谷大学社会学部1年生）、中川 美月（龍谷大学社会学部1年生）、
細川 なるみ（龍谷大学社会学部1年生）、矢作 彩美（京都女子大学文学部3年生）

<メンター学生（スタッフ雇用した昨年度受講生）>

天野 言美（龍谷大学社会学部3年生）、徳田 舞美（龍谷大学社会学部2年生）

■担当教員

笠井賢紀（龍谷大学社会学部専任講師）

活動目的・概要

本科目では取り組む活動のコンセプトを【開かれた学びの場としての醍醐寺～多様な魅力の発見と創出～】とした。これを体現するために次ページに紹介する2事業に取り組んでいる。

コンセプトが導かれた背景には、本科目で学んだ知識・方法を用いて醍醐寺の僧侶・職員を中心とする多様な主体から得られた、「地域との交流機会がもっとあるといいのではないか」「醍醐寺には人それぞれに違った発見ができるほどに魅力が多様にある」「醍醐寺はもともと学びの場だった」というような気づきがあった。

通年約30回の講義は [I 課題発見 | 方法論修得]（第1～10回）、[II 課題発見 | 準備]（第11～13回）、[III 課題発見 | 実践]（第14～17回）、[IV 課題解決 | 方法論修得]（第18～22回）、[V 課題解決 | 準備]（第23～28回）、[VI 課題解決 | 実践]（第29回～）の6ステップで構成されている。各ステップを経ることで、受講生は思いつきに頼ることなく丁寧な取材と関係作りに基づいた project-based な学びが可能になっている。



◆主な活動

<講義>（通年30回）

[1]4/22 オリエンテーション [2-3]5/7 開講式
[4]5/13 訪問反省 [5]課題発見方法
[6-7]5/22 全体オリエンテーション
[8]5/27 インタビュー方法 [9]6/10 まちあるき
[10]6/17 ワールドカフェ
[11-13]6/24, 7/1, 8 合宿準備 [14-15]7/9-10 合宿
[16]7/15 合宿振り返り [17]9/30 夏休み報告
[18-21]10/7, 14, 21, 28 企画書制作 [22]11/4 交流
[23-25]11/11, 18, 25 協議準備・共有
[26-27]12/2, 9 報告会準備 [28]12/11 成果報告会

<講義外>

- 醍醐寺訪問（適宜）
- 醍醐小学校との上醍醐登山
- 夜間拝観
- 醍醐小学校との企画協議
- 京都・さんしゅう堂との企画協議

<スタッフ協議>

①4/22 ②6/25 ③11/4（受講生も参加し企画提案）

<昨年度受講生の活動>

- ①2/23 「五大力さん」でポストカードを配布
- ②3/12-13 京の杜プロジェクトにて岩手県に同行
- ③5/23 醍醐派宗務所長会にて昨年度活動報告
- ④今年度 メンター（授業スタッフ）に2名を雇用

活動の成果

① 醍醐味、だい☆グミ！ 醍醐寺Café

醍醐寺が元来「開かれた学びの場」であったことに着想を得た企画。僧侶や一般職員と地域住民らが交流できるCaféのような場をつくる。初めての今年度は、まずは単発イベントとして1ないし2回を開催予定。

語らいが弾むように、茶菓を用意する。醍醐寺の由来である醍醐水を口にした際の「ああ、醍醐味なかな」に掛けて「だい☆グミ」という名のグミを提供する。醍醐水、醍醐桜（葉チップ）、肉桂（ニッキ）など寺とゆかりの深い食材を用いて、話題性もねらいたい。

寺の催事が比較的落ち着いた境内も美しい新緑期にシーズンで開店させたり、「だい☆グミ」を禅行後の僧侶や②の企画に参加する小学校児童に供したり、あるいはグミ以外の商品企画に展開したりといったアイデアも協議し、次年度以降の受講生が引き継げるような種も蒔いている。

現在、醍醐寺と醍醐寺内で飲食を供する業者との協議を重ね、日程（年度内を予定）、場所（霊宝館喫茶を予定）、参加者確保の方法等を固めている。



▲ 醍醐寺に企画書を提案する中川と富永



▲ 業者に①の企画を説明する柴田

② 私の醍醐寺発見ツアー

醍醐寺には「これ」と言えるようなインパクトのある名物はないと学生は考えた。他方で、取材やワークショップでは実に多様な魅力があることもわかった。何か一つを名物化するよりも、いろいろな人にとって、それぞれ異なる魅力を発見したり想像したりする方が多くの人に訴えかけると考えた企画。

醍醐寺境内を僧侶や職員、学生とともに参加者が語らい歩く「醍醐寺発見ツアー」で魅力を探していく。その後、自分たちだけの「醍醐寺マップ」を作成する。初めての今年度は参加者を一般に広く募るのではなく限定する。

完成した「醍醐寺マップ」を用いた展示会を開いたり、①の企画同様にCaféのような場を交えたりと、やはり次年度以降への展開の種を蒔いている。

今年度は、発想が固定化されておらず自由に魅力を発見できる小学生を対象とする。醍醐寺境内の京都市立醍醐小学校に協力を依頼し「総合学習の時間」を用いて正課内でいずれかの一学年に参加を打診している。



▲ 醍醐小学校に②の企画を説明する玉田

◆ 本科目の各回の様子はFacebookページで更新しています。
<https://www.facebook.com/pbl.daigoji.ryukoku/>
[世界遺産PBL] 醍醐寺 × 龍谷大学(コミュニティマネジメント特論)

活動を振り返って

受講生各自の感想

- 授業ではインタビューの方法や企画の立案や進め方など多岐に渡って学ぶことができ、授業の中でお寺と関わり話を聞かせて頂くことで普段聞くことのできない話を聞き考えが深まりました△酒井
- 取材・調査のために何度も醍醐寺に足を運ぶことによって寺院の方々と親しみを持つことができました。また、合宿では1日だけで取材と企画立案を行う事が出来、大変勉強になりました △柴田
- 企画を作っていくのは難しいですが、同時に自分たちの力で考えていく面白さを実感しながら活動をしてきました。これからは、イベント実施に向けて精一杯頑張っていきたいと思います △玉田
- 多くの方々と出会い、たくさんの経験をし、勉強をいっていく中で自分自身が成長できたと感じられました。このことを活かして、これからも積極的に頑張りたいと思います △富永
- この授業を通して、学年や大学関係なく他の受講生とグループワークや講義をすることでとても多くのことを知ることができました。また、「協力」することの大切さを改めて実感しました△中上
- 私はこの授業で、積極的に発言をするようになりました。また課題実現のためにグループで集まったりインタビューを行うなど大変でしたが、その分真剣に取り組む姿勢ができたと思います△中川
- 醍醐寺のことについてだけではなくインタビューの仕方や企画書の書き方なども学ぶ事ができました。課題発見してその課題についてどんな取り組みを行えば良いのか考えることに苦労しました△細川
- 普段観光でしか訪れないお寺の別の一面、特に地域との繋がりを知ることができ、さらにお寺のことが好きになりました。企画がうまくいくようにこれからも頑張りたいです △矢作

担当教員からのコメント

昨年度の本科目は成果発表会のコメントシートで「醍醐寺ではなくてもできることだ」「ポストカードを配るのが成果発表会后なのはおかしい」とさまざまな批判をいただいた。そうした、どこかわかったような批判のための批判を意に介せず、2月の五大力さんでの特設ブースでは成績に関係ない時期ながらも全受講生が参加し、3,000枚のポストカードを配りきった。

昨年度の受講生から2名を授業スタッフとして加えた今年度は、昨年度の受講生たちの真摯さと情熱をしっかりと受け継ぎ、「アイデア勝負」ではなく丁寧に関係者の語りを紡いできた。今年も成果発表会には目に見えるイベント等は間に合わずお叱りを受けるかもしれない。しかし、本科目が見据えているのはそもそも成果発表会ではない。これまでの30回近い講義やその他の活動で受講生たちは、企画導出から実施までの全過程を通じてまさに project-based な学びに取り組んだ。

また、彼らが残した企画は今年度同様に次年度以降の受講生たちに引き継がれていくだろう。(もちろん、企画としての2事業は今年度中にしっかりと「成功」させるつもりだ。)

